

新型転てつ減摩器

【概要】

転てつ減摩器は、分岐器に取り付け『トングレーと床板の間の摩擦を減少させて』、転換不能を防止する信号用転てつ用品です。

従来の「減摩器」に対して、ローラーの高さ調整を完全に自動化し、取付時間が大幅に削減される転てつ減摩器を開発しました。

【20分から3分/台】

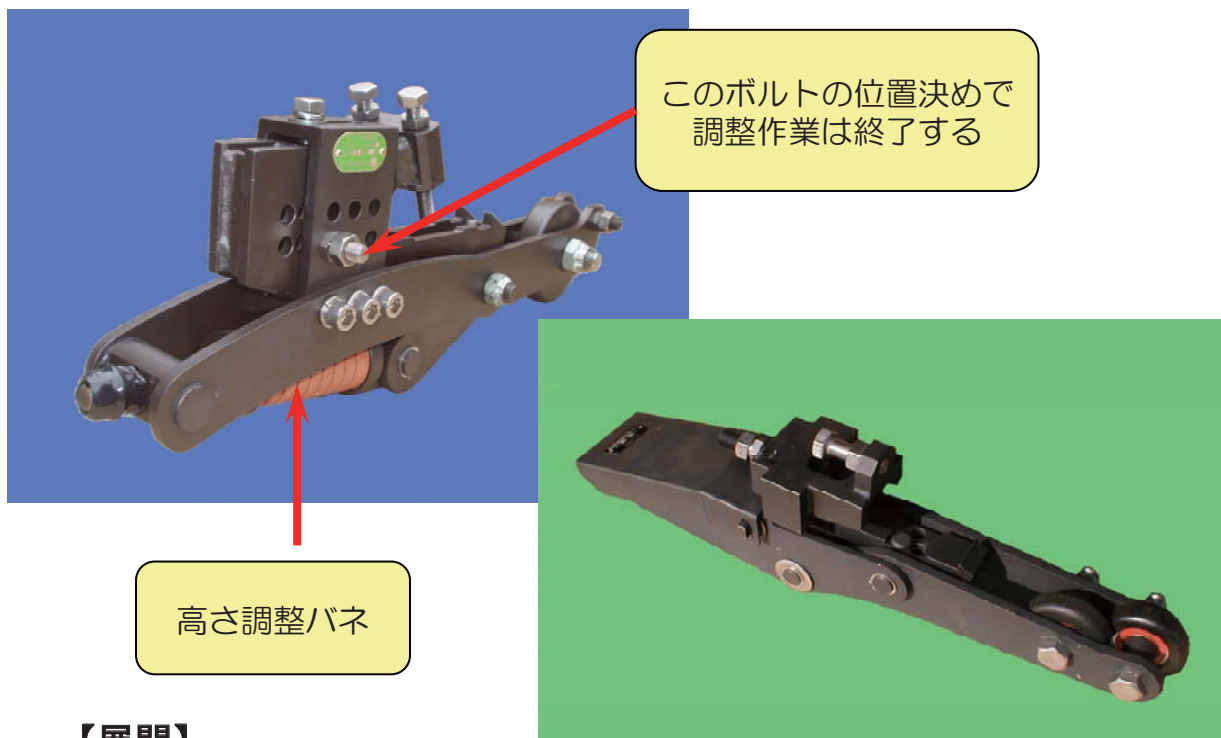
また、取付後の減摩効果が長期にわたり維持されるため再調整の必要無く、通常は点検作業のみで保守が大幅に省力化されます。

【特徴】

従来の「減摩器」の調整は、『名刺の厚さ分』という精度でおこなわなければならず、経験と熟練を要する作業でした。新型減摩器では、設置する分岐器に合わせてボルトの取付け位置を選択するだけで、その他の作業は一切ありません。

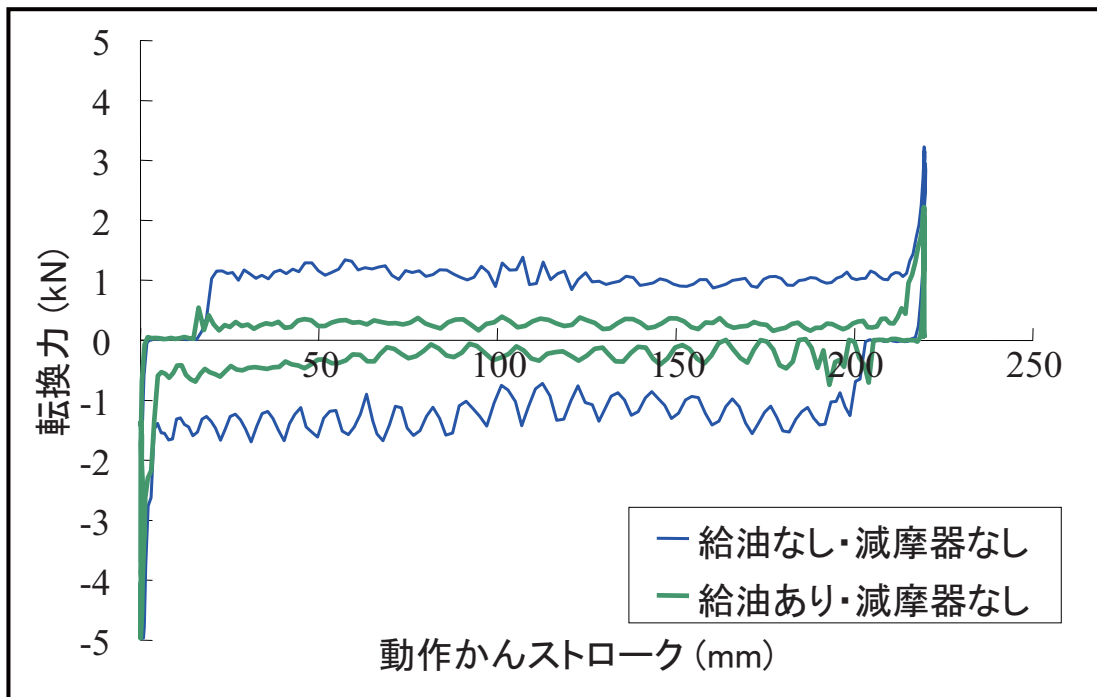
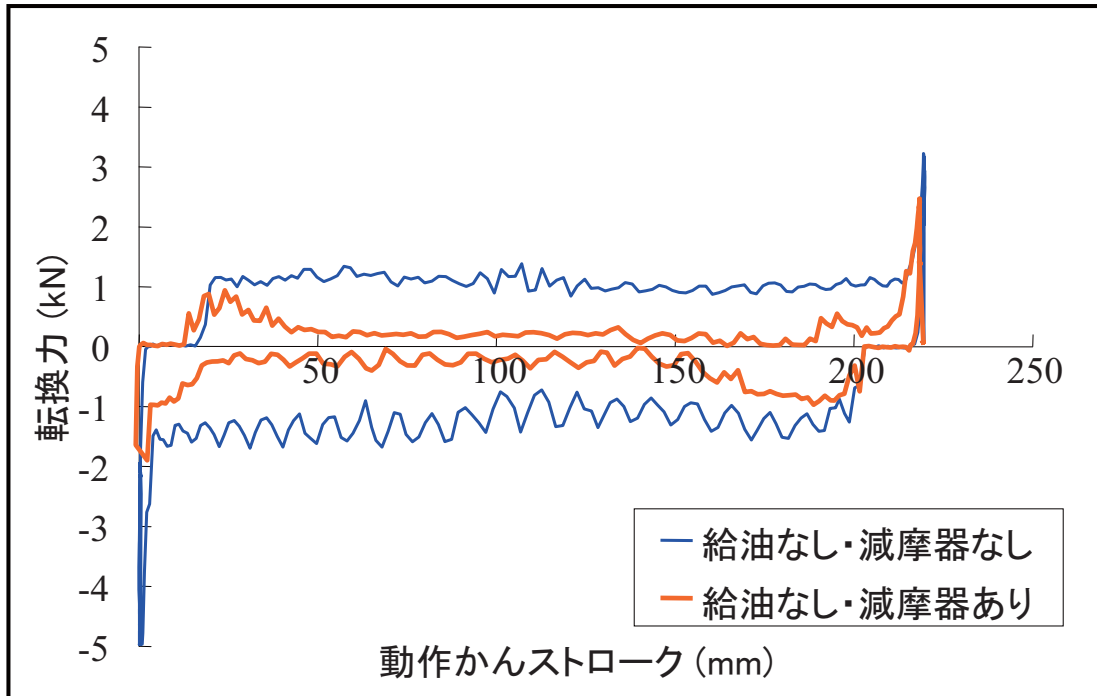
また、必要な設置台数も分岐器によって2台～6台であり、取外しは1分以下で可能なので、老朽取替え作業が非常に簡単です。

【トングレーやまくらぎの交換等、保線側の作業は一切不要】。



【展開】

60kgおよび50Nの弾性分岐器、50N関節分岐器で使用可能です。現在、JR・民鉄で6,500台使用されています。（2007年3月末）



転換負荷力の測定結果から、新型減摩器は床板の給油と同等の減摩効果があり、雨水等で床板の油が流出しても、給油状態と同じ転換負荷となります